

北海道から<食><農>の
スマート化を発信

ITベンチャー、
株式会社ファームノートの挑戦

株式会社ファームノート 代表取締役 小林 晋也 氏

ITベンチャーを起業した経緯から今に至るまでの体験や思いを、株式会社ファームノート代表取締役小林晋也氏に熱く語っていただきました。これから社会に出ていく大学生はもちろん、参加したすべての方がたくさんのヒントをいただいたと思います。

「ベンチャー=ITという時代ではなく、ITで各産業を変えていく、産業ごとにベンチャーが生まれる時代。それは、目の前にたくさんのチャンスがあるということ。」実際に起業しチャンスを活かしているご本人の言葉にはリアリティがあります。



株式会社 ファームノート

2013年創業。クラウド型牛群管理システム「Farmnote」の開発・提供を中心に行う酪農・畜産向けクラウドサービスに特化したITベンチャー企業。「牧場を、手のひらに」をビジョンに、最先端の技術を駆使して、帯広から世界へと挑んでいる。2015年12月に主催した「ファームノートサミット」には各地から400名を超える人が集まり話題を呼ぶなど、活躍の場を日本全国、さらには世界へと広げている。



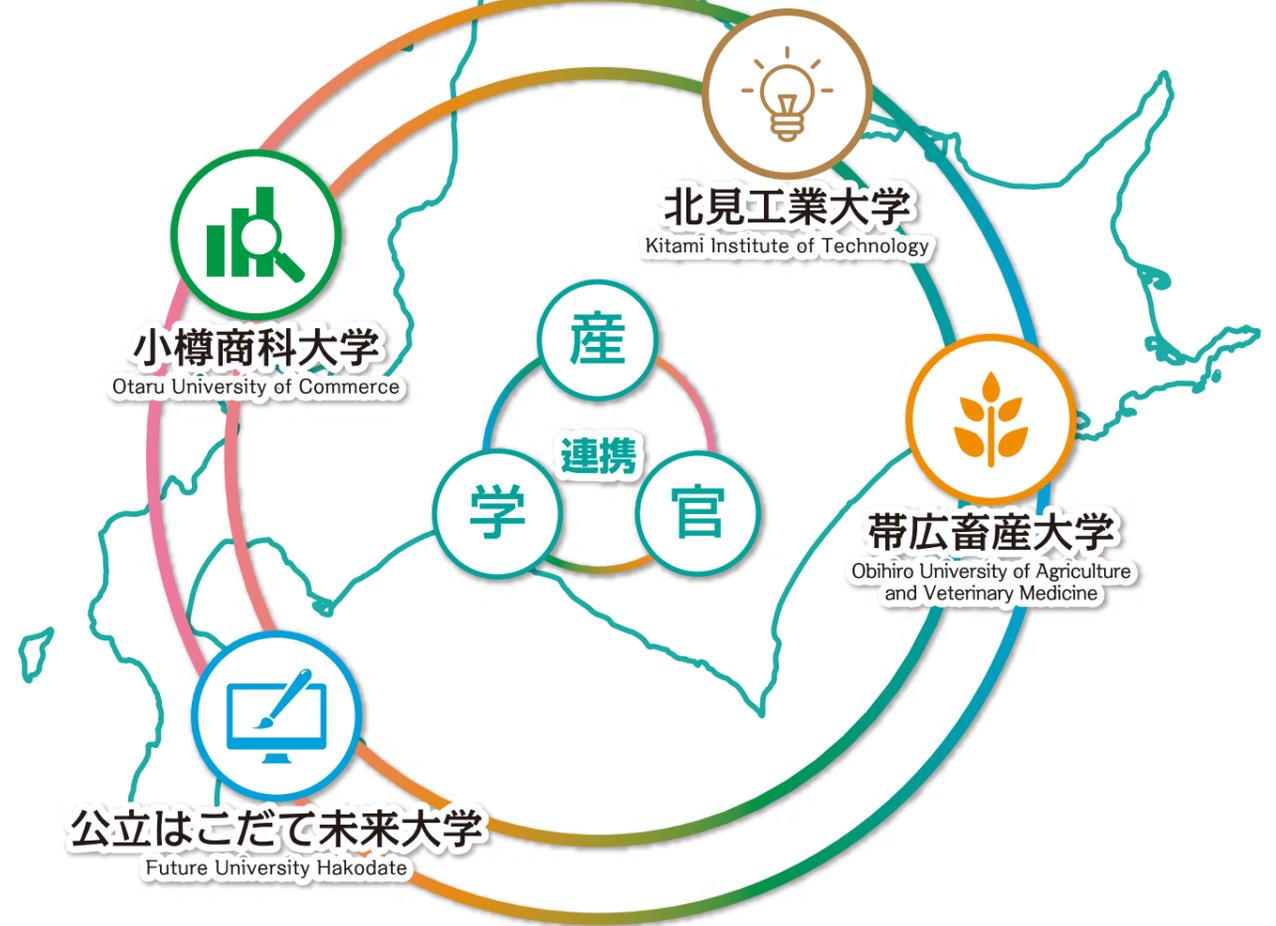
また、「起業するにはビジョンから考えてみる必要があります。起業するとなると売り物となるプロダクトを優先しがちですが、経営の優先順位が一番はビジョンです。ビジョンのない会社には、従業員も、お客さんも集まりません。」と、ビジョンの重要性を強く説かれていました。

さらに印象的だったのは「カスタマーサクセス」という言葉。自社の売上や利益はもちろんですが、お客様の成功「カスタマーサクセス」がなくては、事業は成立しない。カスタマーサクセスを繰り返し行うことが素晴らしいプロダクトにつながるというお話でした。

北海道という小さな枠ではなく、世界全体を変えていくようなアクションが必要であり、そのために起業しやすいこの時代をチャンスとして捉える。

「チャンスを活かすのはみなさん次第」
最後に、小林社長の熱い思いが参加者全員に託されました。

BSTJ BUSINESS SUPPORT TEAM JOURNAL



EVENTS REPORT

北の四大学
ビジネスプラン発表会

- 北の大地を大学連携で結ぶ -

北海道信用保証協会では、小樽商科大学ビジネス創造センターと共同で、北海道内の4つの国公立大学の学生によるビジネスプラン発表会を開催しました。



NEWS

北海道信用保証協会からのお知らせ



北海道信用保証協会では、フリーダイヤルによる経営相談専用ダイヤルをご用意しています。

起業・創業に関すること、日ごろの経営に関することなど、

ツ ナ グ コ シ ェ ン

☎ 0120-279-540 まで、どうぞお気軽にご相談ください！



北の四大学ビジネスプラン発表会

～北の大地を大学連携で結ぶ～

2015年12月13日 (SUN)

◎ 札幌ユビキタス協創広場U-cala (内田洋行ショールーム)

主催:小樽商科大学ビジネス創造センター、北海道信用保証協会
 共催:公立はこだて未来大学、北見工業大学、帯広畜産大学
 後援:サッポロビール株式会社、経済産業省北海道経済産業局、北海道
 総合司会 小樽商科大学ビジネス創造センター 北川 泰治郎

■プログラム

主催者挨拶 小樽商科大学 学長 和田 健夫
 創業支援の取組みについて 北海道信用保証協会 常務理事 高橋 義典

Business Plan Presentation

- 小樽商科大学** デジタルサイネージの失敗で打線組んだwww
～9つの失敗を踏まえたプラン～
- 公立はこだて未来大学** もえもえデジタルサイネージ
～もっとエモーショナルもっとエンターテイメントなキャンパスライフを！～
- 北見工業大学** KCLOSS:北見カレッジライフサポートサービス計画
～オホーツク圏地域・観光情報基盤へのはじめての第一歩～
- 帯広畜産大学** とりもどせ大繁盛(ストライク)、いや小人気(スヘア)でもいいから!
～スポーツコンサルティングビジネスへの挑戦～

Special Talk

株式会社
ファームノート
代表取締役 小林 晋也氏



PURPOSE 開催目的

北海道信用保証協会と小樽商科大学ビジネス創造センターでは、下記を目的として北の四大学ビジネスプラン発表会を開催しました。

- ① 道内の専門分野の異なる四大学の交流により、学生の多様な価値観や社会性の向上を図ること。
- ② 各々の研究を起業という観点で考えることで、若者や学生の創業マインドの醸成につなげる。
- ③ 産学官連携により創業者の育成を図ること。



小樽商科大学
小樽商科大学ビジネス創造センター
公立はこだて未来大学
北見工業大学
帯広畜産大学

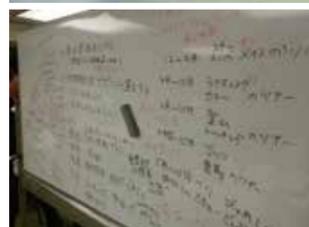


小樽商科大学ビジネス創造センターとは?

小樽商科大学は1911年の創立以来、「実学の精神」に根ざした研究と教育を使命として今日に至っています。その中でビジネス創造センターは小樽商科大学の知的蓄積を社会が求める課題に対する実践的な処方箋として提供し、ビジネス系イノベーションの創出に貢献してきました。特に近年においてはビジネススクール(専門職大学院MBAコース)と連携しながら道内企業の海外進出や地域経済活性化に繋がるビジネス支援、地域の経営人材育成に取り組んでいます。今回、北の四大学ビジネスプラン発表会を通じて、道内の単科系大学がそれぞれの強みを持ち寄り交流することで、若い学生たちがイノベーションのドライバーになることを願っています。またこの度の取り組みに後援頂いたサッポロビール株式会社、経済産業省北海道経済産業局、北海道の関係者の皆様に改めて御礼申し上げます。

小樽商科大学ビジネス創造センター 副センター長・准教授 北川泰治郎

北の四大学 ニセコ合宿 2015年9月14・15日



小樽商科大学、公立はこだて未来大学、北見工業大学、帯広畜産大学4つの大学が一堂に会し、ニセコのPRを考える!

「Strategy for 2030: 目指せ!ニセコから北海道の魅力倍増!」をテーマに、道内4つの大学から学生14名と教員8名を含む、総勢27名がニセコ町に集合し、1泊2日の合宿を行いました。合宿では、2030年北海道新幹線札幌延伸を見据え、ニセコを観光圏の核とした地域の活性化、北海道ファンを増やすための魅力倍増戦略を立案し、プレゼンテーションを行いました。1日目は、片山健也ニセコ町長からの熱いメッセージ、北海道信用保証協会より創業を見据えたセミナーを受けたあと、北海道の魅力探しのワークショップが深夜まで繰り広げられました。大学ごとではなく、シャッフルしてのグループ分けでしたが、他大学との意見交流はとても刺激になったようです。

2日目は、プレゼンテーション。各グループでまとめたプランを発表しました。「酪農体験の観光化」「3世代で楽しむニセコ」「大学生にもっと来てもらうには」といったかなり具体的なプランの数々。即席のグループの、ひと晩でのプランニングとは思えない多彩なアイデア。自分たちの暮らす北海道をあらためて見直すことで、まだまだ新しい気づきや発見があるようです。

GRANPRIX



優秀賞は北見工業大学が受賞!

<ビジネスプラン概要>

北見工業大学生をターゲットとしたオホーツク圏内の情報発信サービス「KCLOSS:北見カレッジサポートサービス計画」の提案 (詳細は5ページに掲載)



講評:審査委員長 北海道信用保証協会 業務部 副部長 小林信治

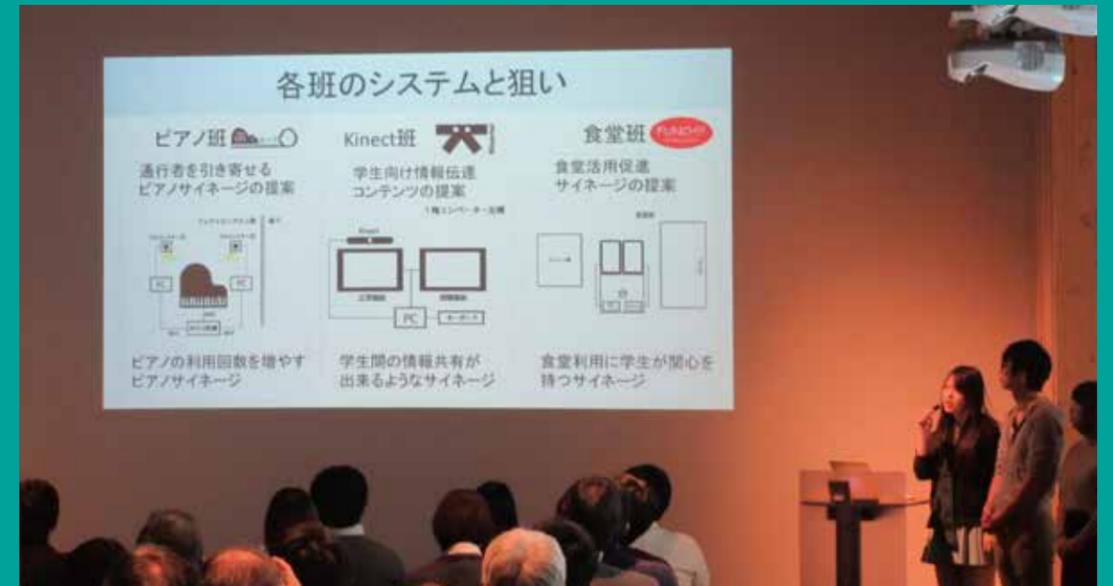
- ・最も論理的なプレゼンテーション。事業計画の展開も段階的に練られていた。
- ・道内における観光業の強化、インバウンドの取り込みについては行政を巻き込み発展していくことにも期待できる。今回のイベントの主旨である産学官連携にも沿っており、地域貢献への広がりも見られた。

審査員:サッポロビール株式会社 営業戦略部長 星野 茂男 氏
 経済産業省北海道経済産業局 地域経済部 産業技術課 産学官連携推進係長 藤江 稔氏



デジタルサイネージの失敗で打線組んだ www ～9つの失敗を踏まえたプラン～

発表者：堀江 知未、針生 惟希、村上 浩太、高橋 理沙、山田 修世 サポート：木村 泰知



もえもえデジタルサイネージ

～もっとエモーショナルもっとエンターテイメントなキャンパスライフを！～

発表者：石垣 愛美、熊木 万莉母、西村 陽菜、大山 浩暉、佐藤 遼太 サポート：田柳 恵美子、竹川 佳成

ビジネスプラン概要

小樽商科大学のチームは、現役大学生が運営する「株式会社SEA-NA」のメンバーであり、SEA-NAが管理している大学生協前のデジタルサイネージを対象としたビジネスプランを発表しました。タイトルは「サイネージの失敗で打線組んだwww」であり、ふざけているタイトルに感じるかもしれませんが、「2ちゃんねる」で有名なタイトルのパターン「●●●で打線組んだwww」を参考にしており、聴き手を引きつける工夫をしました(失敗しましたが…)。

発表内容は、魅力的で大きな夢を語るプランではなく、ビジネスとしての実現可能性を重視した内容であり、実際の「失敗」に向き合い、失敗の原因を明らかにして、問題点を解決するビジネスプランでした。

発表方法は、「●●●で打線組んだwww」のパターン通り、野球の打線の1番から9番までの打者になぞらえて、3番・4番・5番のクリーンナップが、最も大きな「失敗」になっています。例えば、クリーンナップの失敗は3番「配信頻度が少なく、見る時間に対して動画が長い」4番「CMが目立たなかった」5番「全部(頻度・文字色・背景色・全画面表示)工夫しても効果がない」という内容です。

今後、小樽商科大学チームは、プランだけで終わらせず、実現していくことを考えています。今回の発表内容に興味を持った方は、発表資料を株式会社SEA-NAのサイト <http://www.sea-na.net> で閲覧できます。



サポート教員紹介

木村泰知 小樽商科大学 商学部 社会情報学科 kimura@res.otaru-uc.ac.jp

小樽商科大学では、現役大学生が運営する「株式会社SEA-NA」の起業や運営のアドバイスをしている。研究分野は、情報工学分野であり、人工知能や自然言語処理を専門としている。具体的な研究テーマは、地方議会会議録を対象にした情報抽出に関する研究、対話システムの研究、オノマトペの分析などを行っている。下記は関連サイトである。

木村ゼミ <http://minna.ih.otaru-uc.ac.jp> 対話 <http://www.radiobots.link>

地方議会 <http://local-politics.jp> オノマトペ <http://ono-collo.com>



ビジネスプラン概要

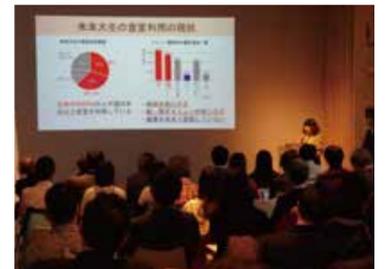
もえもえデジタルサイネージは、3年生全員必修の実践型授業「プロジェクト学習」の一環として実施されたもの。“もえもえ”とは、もっとエモーショナル、もっとエンターテイメントの略です。

メンバーたちは、学生間の情報共有やキャンパス内のコミュニケーションに、まだまだ改善すべきことがあるという問題意識から活動をスタートさせました。

はこだて未来大は情報系の単科大学で、専門である情報技術や情報デザイン、認知科学などの知識をベースに、デジタルサイネージ(デジタル掲示板)を用いて学内を活性化することを目標に掲げました。

①ピアノ班、②キネクト班、③食堂班の3つの班に分かれ、それぞれ①学内のデジタルグランドピアノへのプロジェクションマッピング投影による興味関心や利用喚起の仕組みづくり、②ジェスチャーを使ってゲーム感覚で情報を取得できるデジタル掲示板の開発、③学生食堂での栄養摂取意識の啓発のための情報発信や、メニューの楽しみ方を共有するソーシャルメディアのデジタルサイネージ化、という開発課題に取り組みました。

各班ともにシステムのプロトタイプを開発し、発表会ではデモンストレーションも実施。今後の課題は継続的な実運用で、大学事務局や大学生協、学生委員会などの機関との連携によるビジネスモデルを発表に盛り込みました。



サポート教員紹介

田柳恵美子 公立はこだて未来大学 社会連携センター tayanagi@fun.ac.jp

専門は情報社会論、知識科学。社会連携センター長として、大学と社会との関係形成にも取り組んでいる。教員紹介 http://www.fun.ac.jp/research/faculty_members/emikotayanagi/

竹川佳成 公立はこだて未来大学 情報アーキテクチャ学科 yoshi@fun.ac.jp

専門は芸術工学。音楽などの技能熟達や学習支援システムの構築とその認知的メカニズムの研究に取り組む。教員紹介 http://www.fun.ac.jp/research/faculty_members/yoshinaritakegawa/



北見工業大学



KCLOSS：北見カレッジライフサポートサービス計画 ～ オホーツク圏地域・観光情報基盤へのはじめの第一歩～

発表者：黒田 英慈、加藤 紗瑛、岡村 慎、江頭 泰陽 サポート：榎井 文人

ビジネスプラン概要

意外にも、毎年北見工業大学へ入学する学生の半数は道外出身者です。見知らぬ土地で生活する新入生にとって、欲しいときに適切な情報が得られることはとても重要なはず。そこで、我々は北見工業大学の新生をターゲットとして彼らのキャンパスライフを支援する情報発信サービスを構想しました。具体的には、学生が利用しそうな地域店舗情報を収集してデータベース化し、そのデータベースをクラウド上に置いて利用する二種類のアプリケーション(地図上に店舗情報や経路を表示するマップアプリと店舗のお得情報や訪問レポートを逐次配信するツイートアプリ)を設計し、その運用プランを立てました。マップアプリではポップアップ情報にLinked Dataを埋め込んでインタラクティブ性を持たせ、情報配信アプリでは自然言語処理を使ってツイート文を自動的に生成・配信する機能を持たせた点がウリです。また、情報配信には女満別空港応援キャラクターのボイスロイド結月ゆかりが担当するという設定も設け、擬人化にリアリティを持たせる工夫もしました。

このプランは、現在、複数企業のサポートを受けて実装段階に入っており、2016年中の試行開始を目指しています。将来的には「オホーツク圏観光ビッグデータ共有基盤」のフィージブルスタディとして発展させることを狙っています。



サポート教員紹介

榎井文人 北見工業大学 工学部 情報システム工学科 f-masui@mail.kitami-it.ac.jp

大学で地球化学を専攻し、卒業後は沖電気工業で自然言語処理の研究開発プロジェクトに参画。以来、主戦場を情報科学分野に移し、三重大学を経て現在北見工業大学准教授。博士(工学)。最近では観光情報学とカーリング情報学に注力中。北見市観光推進プロジェクト策定委員長。



帯広畜産大学



とりもどせ大繁盛(ストライク)、いや小人気(スペア)でもいいから！ ～ スポーツコンサルティングビジネスへの挑戦～

発表者：阿部 拓馬、猪部 美穂、逢坂 きらら、吉田 総一郎 サポート：村田 浩一郎、河野 洋一

ビジネスプラン概要

帯広畜産大学のチームは、1～2年生4名で構成され、メンバーは皆、総合型地域コミュニティ「ちくだいKIP」における学生組織「ちくだいKIP students」に所属しています。そこでの活動として既に取り組んでいた、地元ボウリング場の再建について、スポーツコンサルティングの観点から、ビジネスプランとして再構築して発表しました。

「ハイ・ボウル2016～十勝で一番ボウリング上手い高校生決めよう」と銘打ったこのイベントは、開始当初、先方から「お金をかけない大会」を打診されていました。しかし、若者のボウリング離れによる競技人気低迷の現状を打開するには、Productを「ボウリング」とするのではなく、敢えて「豪華景品(10万円相当旅行券)」とし、集客に集中したビジネス戦略を打ち立てることが必要であると訴えました。その結果、学生の熱意に応えていただく形で、主催のスズランボウルからの予算を獲得し、帯広市教育委員会や体育連盟との連携、さらには多くの企業協賛をいただくことができました。

大会の予選は2か月間にわたり、常時、しかも一人でなくても誰と行ってもトライできる仕組みにしました。また、大学生が仕掛けるイベントということで、マスコミを集め、広告に予算を計上しない方法を取っています。今後、このイベントを季節とリンクさせて定着化を図り、さらにはフード系イベントとも連携する計画です。これらのことで、地元帯広らしい、スポーツ文化の興隆が達成できるとの展望を抱いています。決勝は3月13日、2月現在で約30チームが参加中です。



サポート教員紹介

村田浩一郎 帯広畜産大学 人間科学研究部門 人文社会・体育学分野 murata@obihiro.ac.jp

専門は地域スポーツ学。専門種目は体操競技で、日本オリンピック委員会強化スタッフ。総合型地域コミュニティ「ちくだいKIP」を創設。夢は、スポーツで人の幸せをアシストすること。

河野洋一 帯広畜産大学 地域環境学研究部門 農業経済学分野 kawano@obihiro.ac.jp

専門は農業経営学、経営者能力論。帯広畜産大学が取り組む学生主体による地方創生事業である「十勝カレッジSILO」の運営を担当。

